

優秀賞 独立行政法人水資源機構理事長賞

「水の顔」

神奈川県 葉山町立葉山中学校

二年 猿渡 みなみ

「ポタツ、ポタツ」家の中が静まり返ると、水滴の落ちる音が響く。蛇口をきつく閉めてこなければ……。という思いと逆に、私は何故か心の中でリズムをとるように次の音を待たせてしまう。ずっとこの音を聞いていたとも思う。水の音には、心を落ち着かせる癒しの効果があると聞いたことがあるが、本当なのかもしれない。でも私はその思いを振り切って蛇口をキュツと閉めに行った。

私は四年前、社会の授業で神奈川県の水に関する様々なことを学んだ。水源を見学する機会があり、宮ヶ瀬ダムを訪れた。正直行くまでは遠足気分だったが、静かな水面を見て心穏やかになる反面、放流時の激しい水の流れに圧倒されたのを覚えている。首都圏最大のこのダムは中津川の上流にあり、人口増加や産業の発達などによる供給不足の解消や相模原の洪水を防ぐために、昭和四十四年に計画が発表された。しかしダム建設によって、宮ヶ瀬で長い間暮らしてきた村の人々の家が三百戸も水没してしまうことになり、長い交渉の時間が必要とされ、完成までに約三十年の歳月を要したのである。多くの人達の思いと決断があつて、今現在の宮ヶ瀬ダムが神奈川県民にとって欠かせない水源地になっていることを私達は忘れてはいけないのだ。

またこの水源地を安全に守る為に働く多くの方達の力があつて、私達が安心して水を口にできるといふことも知った。ダムは水道水の貯水の他、洪水調節や河川流量の調節、発電など多くの大切な働きを担っている。当時小学四年生だった私は、ダムの事務所の方に「ダムは水の貯金箱のようなもの」と分かり易く教えてもらい、その言葉がとても心に残っている。あの美しい自然の中の宮ヶ瀬ダムをあとにしてから今まで私は水に対する不安などを全く感じる時はなかった気がする。

ところが皆の暮らしや安全を守る為のダムの水も、時には脅威となつて人々の心に深い爪跡を残してしまふということを私は最近知った――。

毎日ニュースで伝えられる東日本大震災の被害の中に、海から遠く離れた福島県内陸部のダム湖の決壊を伝えるものがあった。農業用のため池として造られたこのダム湖は、温泉やキャンプ場などの観光地としても皆の暮らしに欠かせない、憩いの場として存在していたようである。しかしこの三月、誰も予想することのできなかった大地震によって、人々の生活を潤す大切な水が反対に人の命や生活全てを奪ってしまった。水が流れ出てしまった湖は干上がり、遊歩道は崩壊し、地割れした湖底が無残にも浮き上がって見えた。テレビを通して、恐怖を感じると同時に被災された方々の心の痛みがひしひしと感じられ、自分の今まで持っていた水に対する思いが複雑に変化してきてしまふようになった。けれども考えてみると、私が日々癒されている自然の中で感じる水、水道の蛇口をひねれば出てくる生活の為の水、その源となっているダムの水も、全て違う「顔」をもった同じ水なのである。それと同時に水は人間が生きていく為には必要不可欠なものであり、何ごとが起ころうとも永遠に共存していかなければならないのである。私はこの災害から目をそらさず、福島島の壊れてしまったダムが更に強い「水の貯金箱」として、再び人々の大切な水を預かる場として復活することを願っている。

「ポタツ、ポタツ。」と水滴が落ち、閉まりにくくなっていた我家の水道の蛇口は修理をして、もうあの音は聞こえなくなつた。何故かホッとした。今、このような時だからこそ、私は自分にできることから始めたいと思う。この一滴一滴の水にも、ここにくるまでには長い道のりがあり多くの人々の様々な働きや思いがあるということを考え、これからも水を大切に使うと思う。